歴史学科　専門教育科目 体系図

科目群の学習・到達目標	1年 前学期	1年 後学期	2年 前学期	2年 後学期	3年 前学期	3年 後学期	4年 前学期	4年 後学期
■歴史学の概念及び存在意義について学ぶ ・歴史学の基本的な思考様式と知識が理解できている。 ・歴史学の学問の体系と存在意義が理解できている。	歴史学入門 2 歴史学概論 2							
■歴史学に関する専門的知識の習得のために必要とされる調査方法・研究方法を学ぶ ・歴史学研究の前提となる文献収集のスキルが身についている。 ・歴史学研究の前提となる参考文献のまとめ方が身についている。 ・歴史学研究の基礎である史料の解読解釈のスキルが身についている。	歴史調査法 2	歴史比較法 2	歴史研究法 2					
■日本・アジア・ヨーロッパの各地域の大きな歴史の流れを学ぶ ・日本史全体の流れについて、各時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・東洋史全体の流れについて、各地域・各時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・西洋史全体の流れについて、各地域・各時代の特色を踏まえながら理解できる。		日本史概論 ④ 東洋史概論 ④ 西洋史概論 ④						
■日本の歴史を時代区分に従って学ぶ ・日本古代史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本中世史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本近世史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本とアジアにおける近代史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本とアジアにおける現代史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。			日本古代史 ② 日本中世史 ② 日本近世史 ② 近代史 ② 現代史 ②					
■日本の各時代について、特定のテーマを設定しより深く学ぶ ・日本古代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本中世史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本近世史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本とアジアの近代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本とアジアの現代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。				日本史研究Ⅰ(古代) ② 日本史研究Ⅱ(中世) ② 日本史研究Ⅲ(近世) ② 近代史研究 ② 現代史研究 ②			
■日本史の史料の読解を通して時代ごとの歴史的な事実を学ぶ ・日本古代史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。 ・日本中世史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。 ・日本近世史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。 ・日本とアジアの近代史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。 ・日本とアジアの現代史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。					日本史演習Ⅰ(古代) ② 日本史演習Ⅱ(中世) ② 日本史演習Ⅲ(近世) ② 近代史演習 ② 現代史演習 ②		

科目群の学習・到達目標	1年 前学期	1年 後学期	2年 前学期	2年 後学期	3年 前学期	3年 後学期	4年 前学期	4年 後学期
■アジアの歴史を地域区分に従って学ぶ ・東アジア史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・内陸アジア史全体の歴史の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。 ・海域アジア史全体の流れについて、画期となる時期の特色を踏まえながら理解できる。			東洋史Ⅰ(東アジア) ② 東洋史Ⅱ(内陸アジア) ② 東洋史Ⅲ(海域アジア) ②					
■アジアの各地域の歴史について、特定のテーマを設定しより深く学ぶ ・東アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・内陸アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・海域アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。				東洋史研究Ⅰ(東アジア) ② 東洋史研究Ⅱ(内陸アジア) ② 東洋史研究Ⅲ(海域アジア) ②				
■東洋史の史料の読解を通して各地域の歴史的な事実を学ぶ ・東アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。 ・内陸アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。 ・海域アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身についている。					東洋史演習Ⅰ(東アジア) ② 東洋史演習Ⅱ(内陸アジア) ② 東洋史演習Ⅲ(海域アジア) ②			
■文化・生活・宗教・思想などの歴史について、文献史料以外の資料を用いながら深く学ぶ ・文化・生活・宗教・思想などの歴史について、政治・社会・経済・対外関係などの歴史との関わりを通して理解することができる。 ・文献史料以外の資料を援用して各地域・各時代の歴史像を総合的に理解することができる。			仏教文化史 ② 日本地域史 ② 考古学概論 ②	日本宗教史 ② 日本女性史 ② 仏教史概論 ②	東洋美術史 ②	日本美術史 ② 日本思想史 ② 東洋思想史 ② 日本考古学 ② 考古学実習 ②	民俗学概論 ②	
■歴史学と深い関係にある隣接分野を学ぶことで、歴史学を広い視野から見つめ直す ・歴史学に隣接する諸分野の研究成果を援用して、各地域・各時代の歴史像を総合的に理解することができる。				社会学概論 ② 法律学概論 ②	宗教学概論 ② 人文地理学 ② 自然地理学 ②	地誌学 ②		
■様々な地域・分野の歴史研究をおこなう上で不可欠な基礎的調査方法について学ぶ ・現地において資料や情報の収集を行うことができるスキルが身についている。 ・調査結果にもとづき文献講読や資料分析ができる能力が身についている。	歴史専門演習Ⅰ ①		歴史フィールド実習 ① 歴史専門演習Ⅱ ①	歴史専門演習Ⅲ ①				
■学生自身が研究課題に則した研究計画を設定し、史料の収集・分析・報告のプロセスを経て研究を完成させる ・歴史学の分野において、自らが立てた課題の解決に向け、今までに学んだ知識・技能を組み合わせて課題を解決することができる。					歴史専門演習Ⅳ ①	歴史専門演習Ⅴ ①	歴史専門演習Ⅵ ①	歴史専門演習Ⅶ ①

科目群の学習・到達目標

科目群の学習・到達目標	1年 前学期	1年 後学期	2年 前学期	2年 後学期	3年 前学期	3年 後学期	4年 前学期	4年 後学期
■社会科及び地理歴史科養成教育において体系的な知識・技術を学ぶ ・教職教養の基盤となる基礎的知識について、教育学及び心理学の知見を踏まえて理解できる。 ・社会科及び地理歴史科の指導法を理解できる。 ・教師として教育実践を遂行する基本的な知識と技能を理解し、修得している。	教職概論 ② 教育原理 ②	教育行政学 ② 教育心理学 ②	総合的な学習の時間の指導法 ② 日本国憲法 ② 道徳の指導法 ②	特別支援教育の理解と方法 ① 教育方法論 ②	教育相談の理論と方法 ② 社会科教育法Ⅰ ④ 地理歴史科教育法 ④	教育課程論 ② 特別活動の指導法 ② 生徒・進路指導の理論と方法 ② 社会科教育法Ⅱ ④	教育実習事前事後指導 ① 教育実習(中・高) ④ 教育実習(高等学校) ②	教職実践演習 ②
■学芸員養成教育において体系的な知識・技術を学ぶ ・博物館及び生涯学習社会の基礎的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・博物館における資料の収集保管の実践的知識について博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・博物館における教育・展示の実践的知識について博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・博物館におけるマネージメントの実践的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・学芸員業務を遂行する際の実践的技術について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。		生涯学習概論 ② 博物館概論 ②	博物館資料論 ②	博物館資料保存論 ② 博物館教育論 ②	博物館展示論 ② 博物館情報・メディア論 ②	博物館経営論 ②	博物館実習 ③	

※表中の数字は単位数を表し、 1 は必修科目、 ① は選択科目です。